

ペンネーム まひろさん
からのおすすめ!



『あの花が咲く丘で、

君とまた出会えたら。』

汐見夏衛／著 スターツ出版／刊
(二〇一六年)

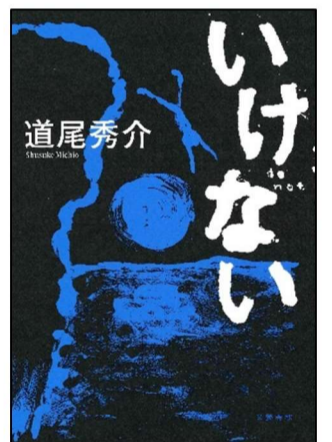


親や学校全てにイライラした毎日を送る中学2年生の加納百合は、ある日母親と喧嘩して家を飛び出し、家の近くの裏山にあった防空壕で一晩を過ごした。目を覚ますとそこには見慣れない光景が広がっていた。百合は1945年の夏、戦時中の日本にワープしてしまったのだ。炎天下にやられ、もうこれまでかと思ったそのとき、偶然通りかかった佐久間彰に助けられる。彼と過ごす日々の中で、百合は彰の誠実さと優しさに惹かれていく。しかし、彼は特攻隊員で、ほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命だった。後に百合は予期せずして彰の本当の想いを知ることとなる。

白米も砂糖もとても高価で、手に入れることが難しく、栄養が十分に摂れない日々が続いていた。生きていくためには、自分の大切な着物などを僅かな食べ物と交換していくしかなかった。

ただ生きていたただけなのに、国の偉い人たちが始めた戦争に巻き込まれ、生きることも許されないそんな理不尽で残酷な世界が描かれています。大空に飛び立ってしまう特攻隊員に恋をしてしまった百合の恋心と戦争の残酷な世界が描かれた感動の作品です。内容の設定がとてもしっくりやすく、普段本を読まない人でも読みやすいと思います。ぜひ手に取ってみてください。

ペンネーム 1000番目さん
からのおすすめ!



『いけない』

道尾秀介／著 文藝春秋／刊 (二〇一九年)



《第一章》
安見邦夫は崖付近のトンネルで交通事故に遭い、死の淵を彷徨っていた。そして、相手の三人は証拠を隠蔽して逃走したため、死亡者を出してしまう事故になった。

この事故から3ヶ月経ったある日、事故現場と同じ場所で殺人事件が起きた。遺体として発見されたのは相手の車の運転手だった。この事件をきっかけに殺人の連鎖が始まる。

《第二章》
中国から来た小学生の珂(カー)は名前が原因でいじめられていた。珂の父親は中華料理店を営んでいたが、店は繁盛せず貧乏だった。
ある日、珂は赤青鉛筆を万引きしようと文具店へ向かった。そこで殺人の現場を目撃する。珂は店から飛び出し、家に飛び込んだ。
翌日、昨日起きたことを店主に伝えた。これが悲劇の始まりとなる…

《第三章》
新興宗教の幹部の遺体が自宅マンションで発見された。刑事の竹梨と水元が捜査にあたったが、自殺と判断された。捜査に疑問を持つ水元は、自身で事件について調べ、事件の真実に迫っていく。

《終章》
全ての章の話が繋がる。最後のページで物語が急変する。

この作品は、各章末に一枚の写真が掲載されています。写真の本当の意味がわかったとき、今まで読んでいた物語の真相はがらりと変わる。そんなミステリー小説です。

福生第一中学校のみなさん、ありがとうございました!



活動の様子 (2009年)

スタッフ募集ページ



(<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/info/2022/06/post-46.html>)

いろは新聞編集
スタッフを募集しています!
好きな本の紹介、イラストの作成など、自分の得意な分野で活動できます。
対象は、市内在住・在学の中・高校生世代です。
興味のある方は、図書館ホームページの募集ページをご覧ください、中央図書館臨時窓口までご連絡ください!